

会員のページ

★増田道夫先生がご退職

北海道大学大学院理学研究院教授、増田道夫先生は、今年の3月をもって定年退職されました。3月10日には最終講義が行われ、続けて記念パーティーが催されました。ご退職後は北海道大学総合博物館でご研究を続けられていらっしゃいます。



(北大 小亀一弘)

★標本の寄贈を歓迎します

分類学の研究論文に引用された標本はしかるべき機関で保管される必要があります。また、しっかりしたラベル（採集地・

採集日・採集者のデータが必須）が貼付されている標本は、将来の研究資料となる可能性を秘めています。国立科学博物館植物研究部 大型藻類標本室（TNS、つくば市）では、さく葉標本の寄贈を受け入れています。長年をかけて収集されたコレクションをやむなく手放されるときはご一報を。

受付：国立科学博物館植物研究部 北山太樹

Tel: 029-853-8975 E-mail: kitayama@kahaku.go.jp

★ご回答・ご質問を募集します

スペースが空きましたので、編集委員長がかねてから悩んでいる問題について会員の皆様にお尋ねいたします。

【問】「いわずた」と「いわづた」、「もづく」と「もづく」。

「ズ」と「ヅ」のどちらを使うべきでしょうか？

いわゆるウミブドウのことを「クビレズタ」と書くと、「語源的には岩につく蔦なのだから『ヅタ』と書くべきでは？」とのご指摘を受けることがあります。「モズク」と「モヅク」もそれぞれに根拠があるようで、両方がみられます。言葉は変化するものなので、どちらが正しいというものでもないでしょうが、いずれかに統一できれば当誌の編集に限らず、いろいろと助かります。はたして会員の皆様は、どちらを使うべきだとお考えでしょうか？ そもそも統一すべきではないという説も含め、ご持論をお寄せ下さい（80～800字）。8月31日締切。また、本誌でとりあげて欲しいご質問（200字以内）も受け付けます。メールか葉書で編集委員長まで（編）。



ワカメでいけばな この春に国立科学博物館（上野）で開催された特別展「花 FLOWER ～太古の花から青いバラまで～」の図録を眺めておりましたら、ワカメをいけばなにした写真(右下)にでくわし、びっくり。これは実物を拝見したいものだ、と、さっそく作者の大和花道家元 下田尚利先生(左下)に問い合わせのメールを差し上げたところ、図録に掲載されているのは2000年に制作された作品「波立つ朝に」の写真(撮影者:尾越健一氏)で、展示には出品されてはいなかったとのことでした(そもそもが無理な問い合わせでした)。

1929年創流の大和花道は、盛花に重点をおく流派でしたが、1984年に下田先生が家元を継承して以降、「いけばなの原点は投入(なげいれ)だ」との思想に立って作風を一変したといえます。「いけばなは時代とともに変化し、一人一人が自分のいけばなをつくっていきます。流派とは、自分のいけばな探しの長い道程で、互いに励まし合う仲間づくりの組織なのです」と語る家元ゆえ、ワカメをいけるというユニークな発想が生まれたのだと思われます。是非、当学会の大会会場などで実演していた



いただきたいものです。大和花道の他の作品はこちらでご覧いただけます：<http://www.yamatokadou.com/gallery.html>

この作品は、2001年元旦に日本女性新聞に掲載されたそうで、ご覧になった会員もおられると思います。編集部では、そのような情報の提供を歓迎しております。(編)

